

7月の植物

ノウゼンカズラ（ノウゼンカズラ科）

学名：*Campsis grandiflora*

ノウゼンカズラは、落葉性のつる性木本で、鮮やかな朱色や橙色のラッパ状の花を咲かせて夏を彩る。中国原産で、日本へは平安時代以前に渡来したとされ、古くから庭園植物に利用されて夏の風物詩として定着した。

「ノウゼン」は漢名「凌霄花（りょうしょうか）」の音読みが訛ったもの。漢字は「霄（そら）を凌（しの）ぐ」の意味で、文字通り、空高く伸びて咲く姿を表している。実際、樹木やフェンスなどにつるを絡ませながらよじ登るようにはえ、2～3メートルにもなる高さから枝垂れるように花を咲かせる。佐賀県内で野生（逃げ出し）で見ることができるかどうかは不明だが、庭先でよく植栽されており、往来する人の目を楽しませる。花がやや小ぶりで花筒が長くなったものは、北アメリカ原産種のアメリカノウゼンカズラと呼ばれる。

開花期は6月から8月にかけて樹勢が強く、日当たりさえ良ければ生育は容易で、猛暑の中でも力強く咲き生命力を感じさせる。一方で、花の命は短く一輪の寿命は1～2日程度だが、次々と新しい花が咲き続けるため、夏の盛りにしばらく楽しむことができる。

（文責：寺村朋輝）

